

# 中野遺跡

—共同住宅建設に伴う発掘調査報告 (NN2017-1)—

2021.3.31 富田林市教育委員会

## 1 調査経緯と調査地について

今回の調査は、若松町五丁目において行われた共同住宅建設工事に先立つ発掘調査である（図1）。平成30年2月21日に事前調査（レンチ1～7）を行い、レンチ1で小穴、レンチ2で流路状の遺構を確認し、レンチ1～3からは遺物が出土した（図2）。この結果を受け、遺構・遺物のみつかった申請地東側擁壁部分（66.7 m<sup>2</sup>）について本調査を実施した（平成30年3月19日～4月4日）。

調査地近辺での報告事例は少なく、すぐ南方は遺跡範囲外となっており、中野遺跡の中でもまだまだ不明な点が多い地域である。

## 2 基本層序

西壁断面（図3）を観察すると、現地表面は現代耕作土（1層）が覆い、その下 GL-0.2mまで旧耕作土（3・4層）となる。続いて GL-0.3mまで暗灰黄色砂混粘質土（5・6層）、GL-0.4mまで褐色細砂混粘質土（19層）が堆積し、地山（20層）となる。包含層からは7世紀を中心とした遺物が出土している。

## 3 調査成果

### 1) 遺構（図3～5、写真1～4）

遺構は北部に小穴が集中し、北～中央部は不定形土坑群、中央部は東西溝、南部は遺構密度が希薄となる。SD1（図3・5、写真3）調査地中央部に位置する最大幅3.90m、深さ0.75mの東西方向に延びる溝で、調査区外へと続く。断面は溝の流れによって抉れており、水を多く含んだ砂や礫で埋まっていることなどから、自然流路の可能性がある。出土遺物は少なく、土師器甕・須恵器杯・高杯・甕・壇など、7世紀前半を下限とする遺物（図5-1・2・10）が出土している。

SD13・14（図3、写真4）SD1の北側の東西方向に近接した2条の溝である。SD13は幅0.55m・深さ0.28m、SD14は幅0.86m・深さ0.35mで、極少量の土師器や須恵器の細片が出土するに留まる。

SP3・6・7・12（図3・4、写真1）調査区北側に集まる小穴である。径0.3m前後（SP3～7）と0.5～0.6m前後（SP8・11・12・18）に大別できる。出土遺物は少なく、中でも径の大きな柱穴（SP11・18）から土師器片や須恵器片が出土している。また、SP4はSX2を切り、SP11・18はSX2に切られている。

SP16（図3・4）調査地南端で攤乱下より検出したため残存状況が悪い。深さも0.06mと浅く、土師器と須恵器の細片が出土している。全体的に調査地南側は遺構密度が薄かったが、SP16が見つかったことから調査地南側へ遺構が広がる可能性がある。



図1 調査位置図

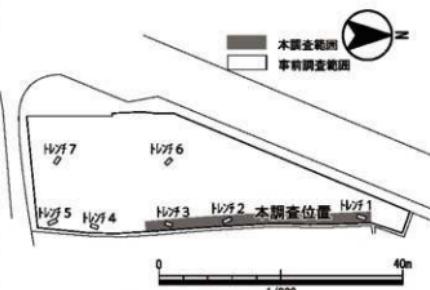


図2 調査区配置図

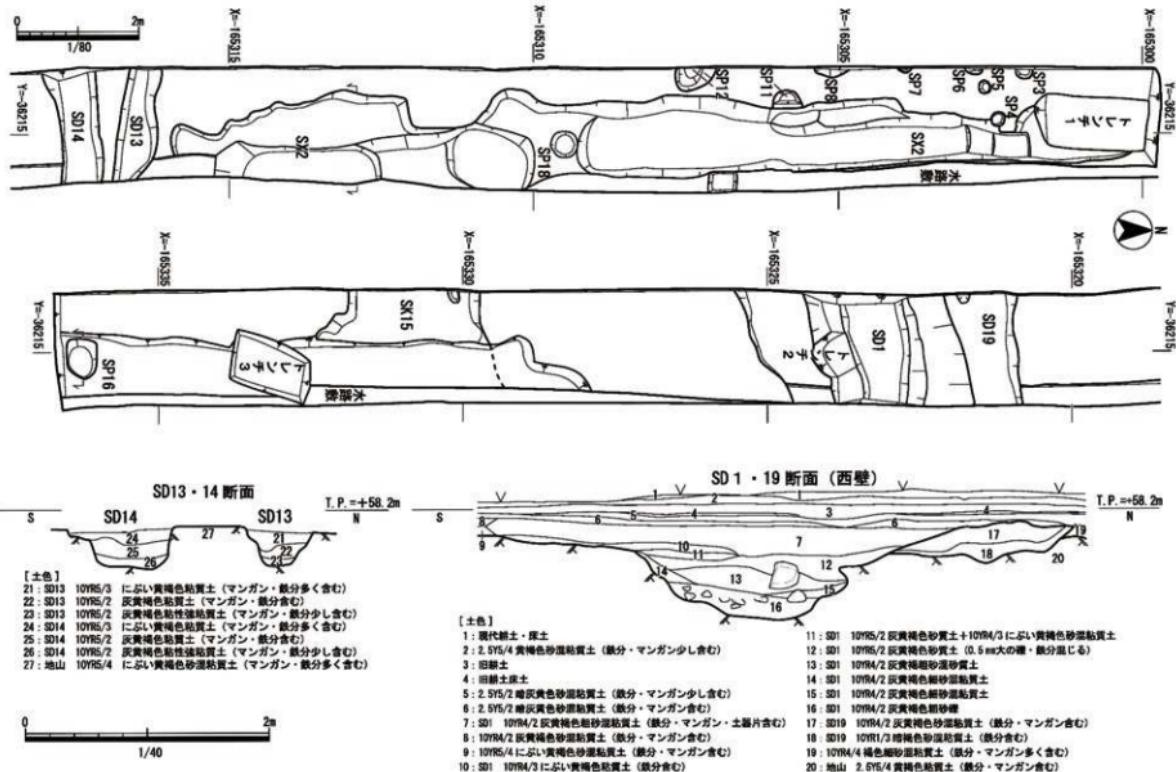


図3 全体平面図と遺構断面図

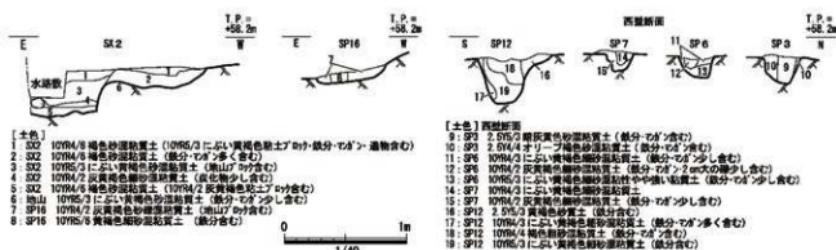


図4 遺構断面図 (SX2, SPI16, SP12, SP7, SP6, SP3)

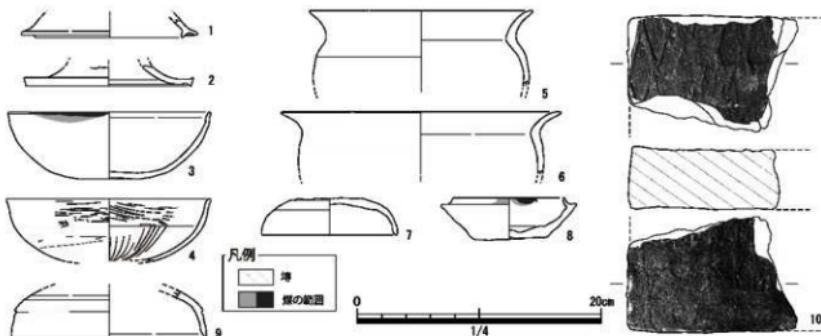


図5 遺物実測図 (SX2: 1・2・10, SD1: 3～9)

**SX2** (図3・4、写真2) 調査地北半分を占める不定形の遺構である。南北約 6.9m、東端については調査区外へ広がる。遺構はほぼ同一層によって覆われているが、断面や掘底の形状などから複数の遺構の集合体であり、掘削底の高さもあまり変わらない。土採り穴の可能性があり、採取されていると考えられるのは遺構断面(図4)の6層(地山)である。出土遺物は多く、埋土には炭化物がまとまって廃棄された部分もあった。

## 2) 遺物 (図5)

今回の調査で出土した遺物は、7世紀を中心とした年代観をもつものが大半である。

SD1 からは須恵器杯G蓋(1)、須恵器高杯(2)、壇(10)を図化した。高杯(2)は透かしの痕跡がある。壇(10)は厚さ約5cmで、上下面に斜格子叩き目が残る。新堂寺跡からも同様の叩き目をもつ壇が出土している(富田林市教育委員会2003)。7世紀前半を中心とした遺物が出土している。

SX2 からは土師器杯C(3・4)・壇(5・6)、須恵器杯H(8)・杯H蓋(7・9)を図化した。土師器杯C(3)・壇(5・6)は外面の剥離により調整不明である。土師器杯C(3)・須恵器杯H(8)の口縁部には煤が付着している。6世紀代のものも一定含むが、7世紀中葉を中心とした遺物が出土している。

## 4まとめ

今回の調査では北端に小穴が集中し、調査地北側に建物が広がっていたと考えられ、同時に粘土採り穴と考えられる遺構もみつかった。それらを画するように中央部では東西方向の溝 SD1 を検出した。SD1 より南側は遺構が少ないが、南端で柱穴 SPI16 が見つかっており、調査区外(南方)に建物があった可能性がある。

中野跡はその範囲も広く、その性格は一様ではない。近年調査地の東方で新規の遺跡発見が相次いでおり、今回調査で出土した遺物が7世紀代にまとめており、遺構が南方へ広がる可能性が高いことなどから、今後は周辺の同時代の遺跡との関連性を考えていく必要がある。

参考文献: 富田林市教育委員会 2003年『新堂寺跡・オガジ池瓦窯跡・お龜石古墳』

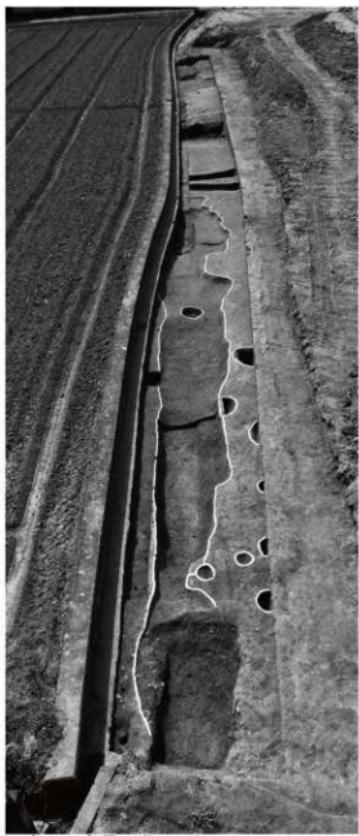


写真1 全景（北より）



写真2 SX2 完掘状況（南西より）

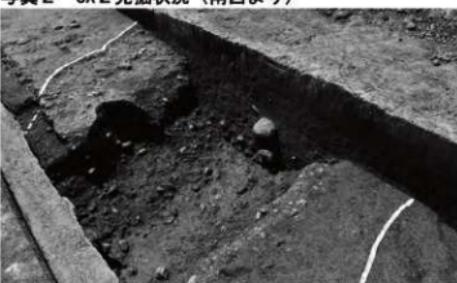


写真3 SD1 完掘状況（北東より）

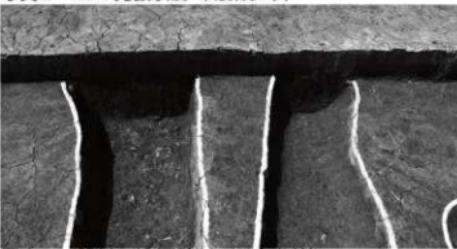


写真4 SD14・13 西壁断面（東より）

#### 報告書抄録

ふりがな	なかのいせき	副書名	共同住宅建設に伴う発掘調査報告 (NN2017-1)				
書名	中野遺跡	シリーズ名・番号	富田林市文化財調査報告70				
編集機関	富田林市教育委員会	著者名	渡瀬 晴香				
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000(代)						
発行年月日	2021(令和3)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査 面積	発掘原因
中野遺跡	となばやししづかわづらよう 富田林市若松町 ごりょうか 五丁目	市町村 27174	16 3 4° 3 0' 3 2"	135° 3 6' 2 0"	20180319 ~ 20180404	66.7 m <sup>2</sup>	共同住宅 の建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中野遺跡	集落跡	古墳時代	柱穴、溝、 土坑	須恵器 土筋器			

印刷 明朗社